

# 新技術導入 広域推進事業取組実績 (概要)

# 夏秋トマトの裂果対策技術の導入による裂果率の軽減と普及(H24~H26)

=大分県=

## 【事業の実施方針】

大分県の夏秋トマト生産においては、果実の裂果発生による品質低下、収量減少が問題となっている。裂果発生時期におけるかん水方法の改善により裂果発生を軽減できる試験成果をもとに、本技術の実証・展示、実績検討会を通じて、地域農家への普及・導入を推進する。

## 【成果目標及び達成状況】(H27. 3月末現在)

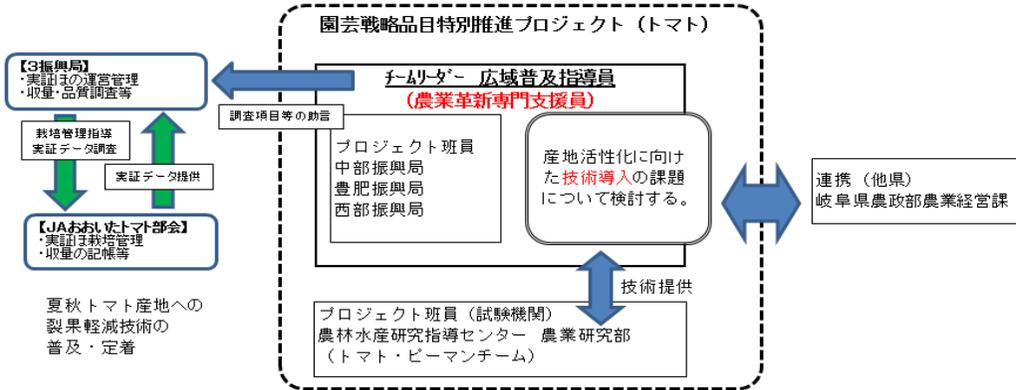
平成23年度(基準年) : 1戸	26年度(実績) : 8戸
24年度(実績) : 2戸	28年度(目標年) : 60戸
25年度(実績) : 6戸	

## 新技術の内容

夏秋トマトの果実が裂果する時期に、かん水時間を変更して管理することで裂果の発生を軽減できる技術である。

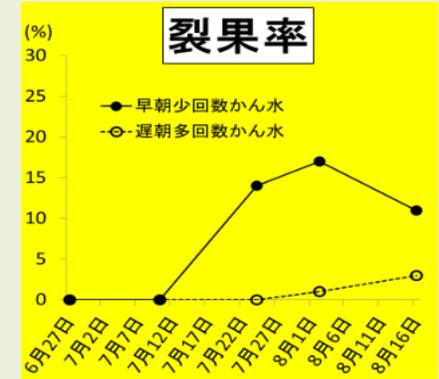
(平成23年度大分県農林水産研究指導センタートマトピーマンチーム成績書)

## 実施体制図 (研究・行政等との連携、役割分担等)

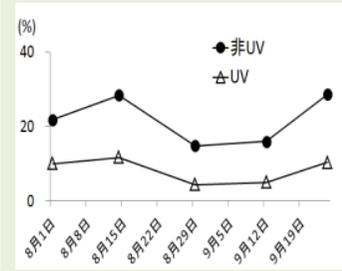
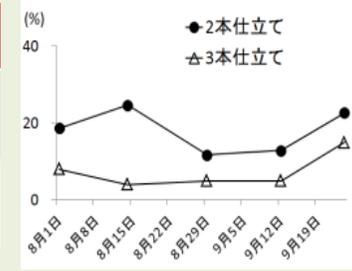


## 技術実証の成績等

- 1実証ほ場において、遅朝多回数灌水では、早朝少回数灌水に対し、**裂果率を削減することができた。**
- 目標に対し、**約4%裂果率を低減することが可能となった。**
- かん水改善以外に**UVフィルムや仕立て法**による効果についても一定の効果が見込まれる。
- 成果の上がった実証ほ場のある産地では、今後技術導入推進を図る。



	裂果率 (%)
目標	12%
実績	8.5%



## 主な取組内容

### 【現地検討会開催】

H25年度はJAトマト部会代表者2地域、H26年度はJAトマト部会代表者1地域で実証圃を設置し、農業革新専門支援員が中心となり、普及指導員、県野菜担当者、農業試験場を参集し、7月に現地検討会を実施。

### 【先進地との意見交換】

農業革新支援専門員が全国ネットワークを活用し、岐阜県の関係者と情報共有実施。

### 【成績検討会】

実証圃設置検討会出席者により、課題の整理と今後の改善方針について検討。



## 今後の展開

- 裂果の発生要因として、灌水以外に**日射や多湿による結露、土壌水分等様々な要因**が考えられる。
- 県域への技術普及に向け、**今年度の実証ほ設置を継続し**、県内全JAトマト部会に対し、周知する。
- 遮光資材等の導入による日射軽減効果についても検証し、**総合的な技術の組立てについて検討する。**
- 併せて**ハウス内環境についてモニタリングし**、発生要因について検討を行う。
- 県内のトマト生産者に対し、本技術の普及を図るため、簡易なマニュアルを作成する。